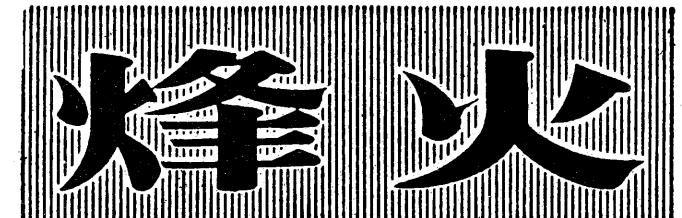


帝国主義の侵略反革命を粉砕し全世界の帝国主義を打倒せよ！　スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命・世界プロ独立・共産主義を組織する世界唯一の党を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

敵の総攻撃と対決し総抵抗戦を開始せよ（国鉄闘争アピール）……P2~3
「金日成死亡事件」に関する見解……P4
沖縄闘争学習資料（第4回）……P6~7
(古典学習)③賃労働と資本……P8

今号の内容

1986年
11月30日
第376号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



NOROSH-

共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫

全国のたたかう労働者・学生のみなさん。
日帝・中曾根の「戦後政治の総決算」攻撃は、いよいよその本質をあらわにしつつ労働者階級の深部にむかってうちおろされてきている。國労への攻撃に示される戦後労働運動の支柱であった官公労労働運動解体攻撃や、國家秘密法制定策動などの治安鎮圧攻撃が激化してきている。これらは戦後史を塗りかえる攻撃であり、労働者階級の階級性と団結を最終的に解体し、戦争とファンズムの道へ人民を動員しようとする攻撃である。

日帝の戦争とファンズム準備にたいして、社共は戦後民主主義の防衛をかかげて敗北の

道を歩んでいる。われわれはこれまでにない質と規模をもつて開始された先進的労働者学生の流動・活性化と結合し、日帝のくりだす諸攻撃との闘争を社会主義の大道へと結合していく決意である。全国主要都市に階級的労働運動の陣形と大衆的政治統一戦線を建設し、党と労働者政治委員会による革命的政治闘争を前進させ、転換しつつある戦後の階級闘争構造を革命の勝利にむけて左から階級的に再編・再建していくことが要請されている。

すべての皆さんにこの事業に結集されんことを呼びかけるとともに、わが同盟への圧倒的カンパを訴える。

冬期カンパを訴える

共産主義者同盟（全国委）



11・24 大阪秘密法闘争成功す

(5ページに報告記事)

階級闘争の新しいうねり 巻き起こそう



三里塚

二期着工を弾劾し反撃戦に起て

の絶攻撃と対決し 抵抗戦を開始せよ

国鉄闘争アピール

全国に階級的地域共闘を!

失業の危機と政治反動が

労働者階級を襲い始めた

戦後一度目ともいべき荒々しい階級的激動期が訪れようとしている。一度目は日本帝国主義の敗戦とそれにつづく戦後革命期であり、およそ四〇年後の今日ふたたび、これに匹敵するような巨大な階級的流動が開始された。

帝国主義間対立と市場再分割戦の激化という世界的状況を背景にして、日本ブルジョアジーの労働者人民にたいする総攻撃がはじまつた。それは戦後史を塗りかえる政治的・経済的な、労働者人民の生活と闘争をとりまく全領域にわたる攻撃なのである。

国鉄攻撃は新しい時代のはじまりを意味する。国鉄労働者に現在かけられている攻撃は、明日はすべての労働者人民の頭上に襲いかかってくるだろう。実際、国鉄分割・民営化による労働者十万人首切り合理化が進行するなかで、他の産業諸部門においてもきわめて大きな規模の首切り、労働強化、労組解体の攻撃が顕在化してきているのである。

国鉄労働者十万人首切り合理化が進行するなかで、他の産業諸部門においてもきわめて大きな規模の首切り、労働強化、労組解体の攻撃が顕在化してきているのである。

ブルジョアジーは円高問題をきっかけにして、ここ数年来、進められてきた産業構造の大転換を一気に加速しようとしている。斜陽産業のスクランプ化が造船、石炭を中心に開始され、労働者の首切りと合理化の嵐が吹き荒れている。造船部門では中の倒産が進み、大手でも石川島播磨で七千人の人員削減、日立で三千人削減と賃金10%減額の計画が具体化されようとしている。また石炭産業においては、石炭鉱業者が年産一千万トンへの縮小案（現在の半

国鉄闘争は最大の正念場を迎えていた。法案通過をまちでして、すでに新会社発足の準備が着々とおこなわれ、国労活動家をねらいうちの人活センターへの攻撃も激しくなってきていた。国鉄闘争の成否は今後の日本階級闘争、労働運動に多大な影響を与えるものであり、絶対に負けられない闘争である。しかしすでに国鉄内諸労組の大半は、労使協調で自分の首だけは守ろう、バスに乗り遅れた国労はつぶしてしまおうという許しがたい立場を純化させていた。十月の臨時大会で左派系執行部を成立させた国労も、新執行部が確固たる階級的展望をうち出しえないので、動搖と混迷を深めている。

決して明るいとはいえない局面下で、政府・当局・御用労組への怒りに燃えた国鉄労働者が全国で決起をつづけていた。彼らを孤立させではない。国労支援・防衛闘争を強化し、国鉄闘争のただなかから、次代の階級闘争を発展させるための諸条件を獲得し、プロレタリアートの総抵抗戦を開始せよ。



座りこみをする国労組合員(大阪地本鷹取支部)

分を答申し、一万人にのぼる炭坑労働者の首切りに着手しはじめた。これに先立って三菱は、南大夕張と高島炭の閉山を決定した。さらに鋼鉄でも大手各社が年内に大合理化計画を作製するとされ、新日鉄は十一月から一時帰休を実施すると発表した。一時帰休の実施は時を移さず、希望退職、首切りへと転化していくであろう。

こうした事態は「不況」部門だけにあらわれているわけではない。時代の花形産業であった自動車でも下請けの単価切り下げ、下請け切り捨てがおこなわれ、大手企業内でも軒並み出向・配転が開始されている。電機産業においても部品清算の海外移転などにより、輸出部門を中心とした人員削減がおこなわれている。

これらの結果、本年七月に完全失業率は二・九%に達し（一六七万人）、男子の失業率は三・一%と過去最高を記録した（総務省発表）。「三〇〇万人失業時代」といわれる情勢が近づいているのである。

失業の危機と不安が多くの労働者をとりまいているなかで、資本の労働者支配も質的に変化してきている。高度経済成長期にはブルジョアジーは帝国主義の超過剰利潤をばらまいて労働貴族を育成し、上層プロレタリアートを買収し、生産性向上への協力と引きかえに一定の賃上げを保障した。七〇年代はじめの石油危機を引き金にして「雇用か賃上げか」の二者択一を迫る攻撃がはじまり、現在それは雇用を守りたければ資本に全面的に服従せよという攻撃へとエスカレートしてきている。

他方、戦後の支配を総決算しようとする政治的攻撃が激化してきている。いま国鉄労働者にかけられている攻撃もその一環であり、本質的

る。自民党との結びつきを誇示さえする右派によつて、いま日教組は分裂・解体の危機を深めている。第三には、日本最大の労組＝自治労にたいする組織攻撃が、地方行革とからめて持続して拡大している。自治労中央はすでに白旗をかかげ、準備を進めており、今夏の大会では総評方針に沿った「全的統一」の本部案を決議した。今後、自治労内で約三分の一を占めるといわれる日共＝統一労組懇親勢力への排除・追い出し、あるいは右派分裂の攻撃が強まっていくことが予想される。

ブルジョアジーと右翼指導部による総評解体の新たな段階の焦点は官公労に移行した。官公労主要単産への懐柔・解体攻撃は次のように進められている。まず筆頭にあげなければならぬのは、いうまでもなく国労への攻撃であり、来年四月の国鉄・分割民営化強行、新会社への移行によつてブルジョアジーは国労解体を完了しようとしている。第二に、教育の国家統制の強化、右翼分裂組合の育成をはかりながら、日教組の変質・解体をねらう攻撃が本格化していく。

日帝の總攻撃にたいして日本労働者階級はいまだ有効な反撃戦に立ちあがりえていない。逆に従来までのたたかいの基盤はブルジョアジエによって日々、堀り崩されている。戦後階級闘争の基礎構造を支えてきた総評労働運動も、いまや実際の崩壊期に突入した。本年七月の総評指導部大会は崩壊の開始の合図であった。総評指導部は労戦統一問題にたいして、九〇年前後に「全的統一」を実現するというペテン的方針をかかげながら、実質は左派排除の右翼的労戦統一によつて総評の解体を具体的に進めていくといふ段階に足を踏み入れた。

社共や協共連合に新しい

する攻撃の幕明けと見なければならない。
天皇在位六〇年をテコとした天皇制による臣
族統合の強化、排外主義の鼓吹、また国家秘密法
をはじめとした一連の反動立法の制定策動な
ども、この階級支配強化のための敵階級の総攻
撃にほかならない。

商女 名流

崩壊である。そしてこれは避けられない情勢に

総抵抗戦を闘しめく紹介

このよだな時代の要請にたいし、戦後階級闘争の公認指導部＝社共はどのように対応しようとしているのか。

社会民主主義政党が帝国主義の危機の時代には排外主義に転落していくという歴史の教訓にたがわざ、社会党も右派主導のなかで第二保守党の道をひた走っている。先の衆参ダブル選挙の完敗後、党の再建をかけて登場した土井新体制は、看板とした新鮮なイメージとは裏腹に、中味は「ニュー社会党」という古い右翼路線であり、社会党の第二保守化にいつそうの拍車をかける役割りを果たしている。社会主義協会を中心とした左派は、この右傾化の波を食い止められずに、ただ流されまいとして旧来の社民の位置にとどまろうとしているにすぎない。社会党的指導下で総評傘下の労組は丸ごと

右翼的労戦統一の道に組織されようとしている。

社会党的右転落を批判してきた日共は、党路線上は資本主義防衛・帝国主義の主要路線擁護

の小ブルジョア的な立場をますます深めている。したがつて彼らは敵階級が体制の存続か否かを問う階級的攻撃をかけてきたときには、部分については批判や反対はできるが、いろいろブルジョアジーに注文をつけたうえで結局屈服してしまうのである。労働運動において彼らは、総評の崩壊にそなえて統一労組懇を形成し、新しいナショナルセンターの結成を呼びかけてきた。しかし彼らの呼びかけるナショナルセンターは、内容的には総評運動を越えるものではなく（多くの面で総評運動よりも右翼的）、また左派にたいしては固く門戸は閉ざされており、つまり日共の党派系列下の勢力の連合の域を出るものではない。この意味で日共には、そして国労で成立した「協・共連合」（協会派と日共の連合）をふくめて、現在必要とされる日本プロレタリアートの総抵抗戦を組織していく力はないといわねばならない。

全国各地に建設することである。それはまず地域に国鉄労働者支援・防衛の拠点を築く目的のために開始されるだろう。しかしそこにどまるのなら不十分である。国鉄闘争の枠をこえて階級的労働組合の強固な、そして恒常的な地域共闘組織の建設がめざされなければならない。単産型労働組合（運動）が日本労働運動の主流を占めた時代が終えんするなかで、地域共闘組織は階級的労働運動が選択すべき主要な組織戦術となつた。新たに建設されるべき地域組織は、大衆の切実な経済的要求を擁護して資本の侵害と大衆的にたたかい、経済闘争と政治闘争をもつとも原則的に結合して組織し、地域に資本のちがいを越えた労働者の組織された部隊を登場させることで、プロレタリア階級闘争の基礎構造へと発展していくものでなくてはならぬ。われわれはそのような質をもつ地域共闘体を各地方ごとに、全国主要都市につくりあげていくために奮闘せねばならない。国鉄闘争はそのための絶好の機会である。

最後に分割・民営化攻撃とたかうすべての国鉄労働者に呼びかける。

國鉄労働者に呼びかける。

当局とのたたかいを最後まで遂行しよう。自己の運命は全労働者の明日の運命であることを訴え、地域に積極的にうつて出て支援を拡大しよう。国鉄労働運動の負の遺産、企業内組合主義を批判克服し、敵階級の全体重をかけた攻撃への総抵抗戦に、階級的労働運動の隊列とともに出撃しよう。国鉄労働運動の混迷の真の根柢である前衛党とその指導の不在という状況に立ちむかいい、先進的国鉄労働者は全国労働者政治委員会へ



平壌空港に姿をあらわした金主席(右)

事件の経過を簡単に振り返ってみよう。韓国ではすでに一六日、朝鮮日報が東京特派員発の記事で金日成死亡を報道していた。一七日午前、韓国国防省スポーツマンは、北朝鮮が三八度線付近の拡声機で、金日成主席が銃撃戦で死亡したという放送を流していると発表。つづいて板門店の北朝鮮側区域で葬送曲が流れ、半旗が掲げられているとの「消息筋」の報道もおこなわれた。米・日政府は死亡の事実については未確認であると表明。平壌放送は金日成の死に触れる報道をせずに平常通りの番組を流したが、朝鮮総連は暗殺情

事件の真相をめぐってさまざまなお説が飛びかっている。反共陣営の側は当初から北のクーデター説をさか

戦争挑発と人民弾圧のための政治的謀略



朝鮮民主主義人民共和国（以下北朝鮮）の金日成主席が死亡したといふニュースが、十一月一七日の午前、全世界に流れた。発表したのは韓国国防部である。まる一日たった一八日の午前には金日成健在が確認され、韓国当局の発表がまったくのデマであったことが明らかになった。すぐに嘘とわかるデマがなぜふりまかれたのか。われわれはここに韓国全斗煥政権の深い体制的危機を見ないわけにはいかない。

生存を承知で発表

前九時半、金日成主席はモンゴルのバトモンフ人民革命党書記長を出迎えるために姿をあらわし、死亡説はあけなく否定されることになった。

韓国側には、死亡説の根拠となつた北朝鮮の対南放送の録音テープは存在しないことが明らかになり、またまいにちとも証拠となる写真の肖像画の写真も公開されていない。

詳細な事実関係はいづれ解明されるにせよ、現時点でのことだけははつきりさせておかねばならない。

（全斗煥個人ではなく韓国ブルジョアジーの独裁政権という意味）が、国内の高揚する反体制運動を弾圧するために仕組んだ政治劇であり、北朝鮮にたいする戦争挑発をもねらつたものであったということである。先の二五日の発言において全斗煥は「一六日深夜から開かれた緊急首脳会議で金日成は死んでいないとの結論を下した」（要旨）とともに「事件がでっち上げにもとづく政治的謀略であったことは明々白々である。そしてこの主役はおそらく軍

「金日成死亡事件」は一体何であったのか

危機深める全斗煥政権のでっち上げ

報を全面的に否定した。

この日、韓国では北の挑発にそなえるとの理由で非常戒厳令（甲号非常令）が発令された。また一五日に全斗煥みずからが語ったところによれば、「一七日の午前」一時半から一週間にわたって全韓国軍は戦争準備態勢に入っていたといふ。

われわれには事件の全貌を正確に知る手段は現在ない。事件の当事者である朝鮮労働黨の沈黙は全世界のプロレタリアートの疑惑と不信を生んでおり、彼らは正確な事実と事態についての断固たる見解を至急公表し、帝國主義ブルジョアジーどもの反共キヤンペー

ン、反革命策動にたいしてたたかいを、全世界のプロレタリアートに呼びかけるべきである。

詳細な事実関係はいづれ解明されるにせよ、現時点でのことだけははつきりさせておかねばならない。すなわち、今回の事件は全斗煥政権（全斗煥個人ではなく韓国ブルジョアジーの独裁政権という意味）が、国内の高揚する反体制運動を弾圧するために仕組んだ政治劇であり、北朝鮮にたいする戦争挑発をもねらつたものであったということである。この計画に必ずしも同調していないが、密接に関係していたことは、韓国の戒厳令や戦争態勢の発令が米帝の承諾なしにはありえないこと、最初の情報発信源が日本（東京）であったことなどからもうかがえる。

計画は不発に終わった。しかしこうした謀略は、危機に瀕したブルジョア独裁政権の常とう手段であり、南の革命運動が勝利するまでは形を変えて何度も起きるだろう。緊迫する韓国情勢のなかで警戒を強め、韓国労働者人民への連帯を強化せよ。

・ 防衛省であった。

背後に米日帝の影

全斗煥政権の体制的危機は、九月から開催されたアジア競技大会によっておしとどめられなかった。大会期間中にもソウルの大学を中心にして独裁打倒の激しいたかいが展開され、その後も十月一八日には建国大学で二〇〇〇人の学生が四日間のうち城を貫徹するという画期的な闘争をくりひろげた。韓国労働者人

民のたたかいは質量両面でめざましい発展をとげており、十月一四日には「マルクス・レーニン主義党」の活動家が検挙され、七四人が指名手配されるという反革命的弾圧事件も起きている。

烽 火

前進する国家秘密法粉碎闘争

関西実が大阪で集会

京都集会(10・28)には五百

雨のなか弾圧をものともせずデモ

一一月二四日、大阪・国民会館に全関西のたたかう労働者・学生・市民三〇〇余名を結集して、国家秘密法を許さない全関西集会がかちとられた。集会は四八団体の大衆的結集で労働組合・学生団体・活動家団体などが一堂に会するというもりあがりであった。

司会より一一・二四集会にいたる経過の説明と、国会再上程を目前にひかえる緊迫した情勢であることが訴えられた。これに呼応して連帯アピールとして、反天皇のうねりを! 関西連帶会議、関西韓国政治犯救援センターよりアピールがなされ、合理化攻撃とたたかう全金神戸発動機支部からのメッセージが代読された。つづいて京都で強行された天皇在位六〇年奉祝パレード粉碎闘争で不当にも逮捕され、二〇日に奪還された二名の仲間が登壇し戦線復帰のアピールをおこなった。外登法とたたか



11・9

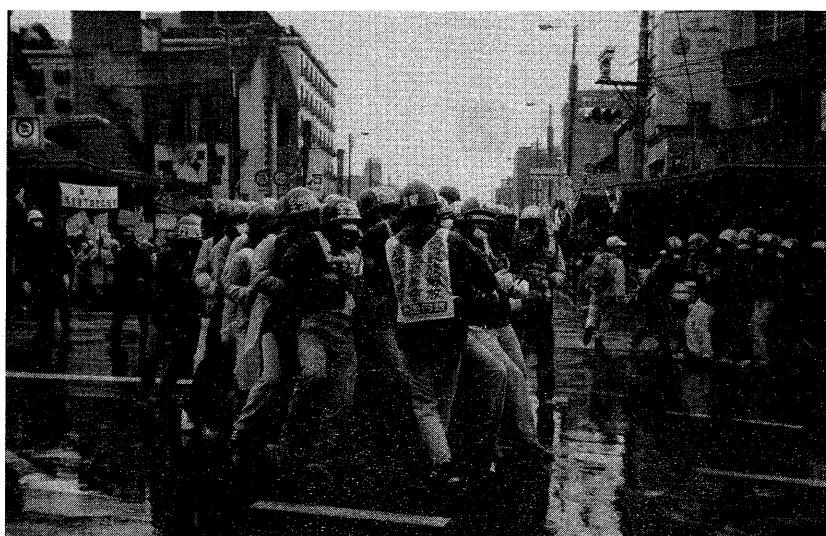
天皇在位60年奉祝 式典粉碎に決起す

京都

雨のなか弾圧をものともせず戦闘的デモの先頭でたたかう全国労政の部隊

奉祝派のパレードを数時間後にひかえた京都市内を奉祝反対でうめつくしたデモに対し、権力・機動隊は不当弾圧をくりかえし、最先頭でたたかう全国労政と関西学連の隊列においかかり、二名を逮捕する暴挙を行なった。弾圧への激しい怒りの中でデモを貫徹した部隊は、引き続き奉祝パレードに対する抗議行動、京都府警五条署に対する弾劾行動と終日市内を席巻し、「奉祝十万人パレード」を数千人にも満たない大破産に追いこんだ。

全国の同志、友人諸君! 反天皇制のたたかいの前進を!



全國各地で
狹山集会

10・31

十月三一日、「寺尾差別判決十二
カ年糾弾・狹山第二次再審闘争勝利」の集会が全国各地で行なわれた。

獄中の石川一雄氏からは「狹山闘争の完全勝利の道は労働者階級との共同闘争をはじめ全人民的な闘いを作り上げること抜きには考えられない」との檄がよせられた。

石川氏の檄にこたえ、狹山闘争の後景化、融和主義とたたかい、狹山闘争を全人民的政治闘争へと発展させ、第二次再審に勝利しなければならない。

長である岸田早苗氏がたち「本集会を一つのステップとして八七年一・五のたたかいで国家秘密法を撃て」とよびかけ、全体の拍手で確認された。特別報告として大阪社会法律文化センターの永嶋靖久氏より国家秘密法の狙いが鋭く暴露された。

参加団体アピールとして全国労政をはじめ一団体のアピールがなされ、集会宣言、スローガン掲げ、インターネット音唱ののち、中郵までの戦闘的デモがおこなわれた。なお、一〇月二八日には同実行委の京都プロックの取り組みとして、シルクホールに五〇〇名の労働者・学生を結集し集会がかちとられた。

同志社大学全学戦線のたたかう学生は、学生共同闘争の最先頭に立つてこれを牽引した。同大学戦線はする実力撃滅戦と、十一・九天皇在位六〇年京都式典粉碎闘争を権力の総評にとってかわる新たな階級闘争構造の建設を呼びかけた。集会では十一・九京都闘争被弾者からの「天皇攻撃が不可避に治安弾圧をもなってうちおろされるものであるならば、われわれはこの弾圧を引き受けつつ、さらに数倍の反撃戦で敵権力に立ち向かう」という獄中アピールも紹介され、満場の拍手を受けた。



明大 学生共同闘争 成功かちとる

11・18

基調報告する岸田事務局長

請がなされた。

基調報告には全関西実行委事務局

請がなされた。

十一月九日、京都円山野音において「一一・九天皇在位六十周年奉祝式典・パレード反対! 京都決起集会」が開催された。結集した一五〇〇名の部落解放同盟・労働者・学生・市民は、「天皇の責任で遂行された侵略戦争の二〇年と、象徴天皇制のもとで経済侵略を再開しアジアの盟主となる四〇年が在位六〇年であり、私たちはこれを祝うことなど決してできない」という集会宣言ののち、「戦争とファシズムに向けた天皇制攻撃とたたかうため、団結がんばろう」の声とともに、降りしきる秋雨を突き破りデモにくり出した。

全国学生共同闘争の成功をふまえ、全国で対ファシスト戦、革命的学生運動の発展を勝ちとろう。

奉祝派のパレードを数時間後にひかえた京都市内を奉祝反対でうめつくしたデモに対し、権力・機動隊は不当弾圧をくりかえし、最先頭でたたかう全国労政と関西学連の隊列においかかり、二名を逮捕する暴挙を行なった。弾圧への激しい怒りの中でデモを貫徹した部隊は、引き続き奉祝パレードに対する抗議行動、京都府警五条署に対する弾劾行動と終日市内を席巻し、「奉祝十万人パレード」を数千人にも満たない大破産に追いこんだ。

全国の同志、友人諸君! 反天皇制のたたかいの前進を!

いとられた。

学習資料

沖縄87年闘争の勝利にむけて

琉球処分以降、ゆるやかではあれ沖縄の社会・経済の資本主義的再編が開始され、これにもなって沖縄社会にも資本主義的な階級関係が芽はえてくるようになる。旧支配層による反日運動や、旧体制の復活を求める運動は後景にしりぞき、沖縄の最初のブルジョア的運動、プロレタリア的運動も生みだされてくる。

たたかいの歴史(2)

第四回

資本主義的再編下で
芽ばえだした新たな
階級関係

旧支配層の運動は後景に

王府の上級士族層)の動きがあった。

旧慣習存政策下で租税も免除され、財をたくわえてきた旧支配勢力の一部によって、政治的にも経済的にも再び沖縄における支配の実権を奪回しようとする試みが開始された。一八九六年、旧王国・尚泰の第二子・尚寅ら七名が発起人となつて、公同会という政治結社がつくられた。それは日本とりわけ鹿児島県人によって独占されているといつさいの支配権を、奪い返そうとする沖縄人支配階級による、明治政府の植民地的支配にたいする反撃であった。

だが彼らは沖縄の独立をめざそうとしたわけではなく、日本本土においては版籍奉還がなされたとき、各藩主をそのまま知藩事としたように、

沖縄でも日本本土と同等のことを実施せよと要求したにすぎない。

公同会の運動は内外の総反撃をうけて失敗した。政府はこのような復藩的性格のこい運動を、このままづけるなら国事犯として処罰するとおどしつけた。沖縄内部でも日本との完全な絶縁をのぞむ頑固派はもちろんのこと、かつて王府の圧政に苦しんだ地方農村平民層や、旧被支配者層出身の新興エリートたちも、猛然と公同会運動に反対の声をあげた。

謝花(円内)たちが発行していた「沖縄時論」



奈良原繁が知事として沖縄に君臨した一八九二年から一九〇八年まで、那覇市長を歴任)の区分によれば、「郡区が編成され、区及び間切りに特別の自治機関が設けられ、徵兵令が施行され、土地整理が行われ、税制が改正され、一般地方制度にむかっての準備が着々と進められた」時期にあたる。それは日清戦争した日本が、沖縄において帝国主義的支配と資本主義的収奪のための基盤形成を開始した時期であった。旧薩摩藩の出身であった奈良原はそのために特別に抜てきされ、一六年間にいう異例の長期在職(通常二年前

●公同会運動

後)と、「專制」をもってこれにあたった。奈良原は沖縄人の官界その他における進出を圧迫しながら、日本帝国主義の尖兵として、沖縄における植民地的支配と収奪を実行した。

沖縄の封建制支配が沖縄社会の外からの方によつてではあれ、徐々に資本主義的なものへと転換されていくにともない、沖縄社会の内部からもいくつかの新しい動きが生まれ

公同会の運動は内外の総反撃をうけて失敗した。政府はこのような復藩的性格のこい運動を、このままづけるなら国事犯として処罰するとおどしつけた。沖縄内部でも日本との完全な絶縁をのぞむ頑固派はもちろんのこと、かつて王府の圧政に苦しんだ地方農村平民層や、旧被支配者層出身の新興エリートたちも、猛然と公同会運動に反対の声をあげた。

謝花(円内)たちが発行していた「沖縄時論」

もう一つの新しい動きは沖縄民権運動の登場である。それは沖縄人によるブルジョア民主主義運動の開始であり、旧支配層とは異なる新興勢力が沖縄社会に登場してきたことをうかがわせるものであった。その中には、沖縄で最初のブルジョア教育を受けた若い一群のエリート層であった。

沖縄民権運動の中心人物である謝花昇は、農家の出身であったが、最初の留学生として東京に学び、農業大学を卒業後は県の農業技師として県政の改革に努めた。謝花はなお根強く封建的身分関係が残存する沖縄において、平民出身でも士族や王族以上の地位に昇進できることを示すシンボルとして、また「階級打破の象徴」として世人の注目を一身に集めたエリート官僚であった。

だが謝花がいかに「良吏」たるべく努力しても、いかんともしがたい厚い壁が当時の沖縄社会にはあった。その一つは日本政府の植民地的圧迫であった。これらの壁は新米の官僚・知識人等にとって共通のものであり、謝花民権運動はこれらの利益を代表するものとして展開された。

当初は県政の忠実な寒衣者であつた謝花は、本土資本家・旧支配層による杣山(そまやま・近世以来王府の造林政策によって保護されてきた森林)払い下げの土地囲い込みなどをつぶさに接して奈良原県政との敵対関係を深め、高等官技师の地位を

沖縄の旧支配層はこの敗北を通して、もはやいかなる形でも復古的な手段では支配権の奪回是不可能である。県当局と密着しつつ殖産興業に努めて、沖縄における政界・商業界の指導権を奪回することが、唯一の残された道であることを確信するのに至るのである。以降、旧支配層の地方ブルジョアジーへの転身が開始されていく。

投げ捨てて沖縄の旧支配層との抗争に突入していった。彼は同志を集め

一八九八年には沖縄にも徵兵令が施行された。これが「上原一揆」として、あつた。主要な動向に徴兵忌避と小作争議がある。

学と曰琉同祖論の提唱であつた。伊波は「今の琉球人は早く日本へ同化するのが幸福を導る道でよし」と

民大会に数千人の群衆がおしよせて

また奈良原県政に対抗して民権派の代表を国会に送りだすための参政権獲得運動を組織した。

を進めたが、決してかつての旧慣諸制度や開始された資本主義的収奪とたたかう農民の利益を代表したのでなかつた。現に技官時代には、沖山開墾にたいして反対する農民をおさえこむ役目をはたしている。謝花昇民権運動とは、参政権運動に代表される沖縄人のブルジョア的諸権利抗大運動であつた。

一八九八年には沖縄にも徴兵令が施行された。本土での血税一揆の如きの激しい抵抗はなかつたが、徴兵忌避者として告発されたものは七七四名にのぼる。一九一〇年には国頭郡の本部村で、徴兵忌避の疑いをかけられた青年への徴兵官の取り扱いに怒った村民が、徴兵検査場に突入するという事件もおきていた。また小作争議も各地でおこつたが、耕地の放棄によるサボタージュや逃亡が大半であり、いまだ分散的であった。これに比べて植民地的支配を是認したうえで、その支配の一角に食いこもうとした沖縄の特権層、知識人たちの動きは活発であつた。彼らは植民地的支配の強化、侵略への人民動員をイデオロジーの面から保障するためには本格化した皇民化攻撃に回調し、沖縄の側から日本への同化を積極的に進めようとした。沖縄特権

「同化するのが幸福を得るの道である」という見地から、學問的立証作業をおこなったといわれる。それは沖縄にたいする差別の根柢を沖縄の後進性に見いだし、日本資本主義を「達すべき先進社会」とし、差別かららの解放を「日本人としの位置」の獲得に求めた当時の沖縄知識人のイデオロギーを代表するのであった。伊皮の思想は日本帝国主義の中里

き事態の進展であった。これらは沖縄の民主が政治的な意味での封建的後進性から目ざめつてあることを示すものであった。そのことを証明するかのように一九一三年、知事排撃運動の影響は県庁放火事件となつてあらわれる。中頭郡役所の現職吏員である野原幸輝は、排撃運動者を弾圧し、差別的施政をおこなう日比知事への告発行動として、県庁に火を放つたのである。

以降、沖縄での労働者のストライキなど新しい階級による社会運動も

日本同化

●新たな階級

と旧支配層との結びつきは強まり、日本化による資本主義的再編と植民地的収奪の波は強大なものとなり、これに立ちはだかるものはいなかつた。

と旧支配層との結びつきは強まり、日本化による資本主義的再編と植民地的収奪の波は強大なものとなり、これに立ちはだかるものはいなかつた。

● 新たな階級
激しく同化・皇民化の政策がうち
おろされる一方、封建的諸制度から
解き放たれた農民の分解がはじま

起こった。知事といえばかつての工
家にかわる沖縄の最高権力者で、そ
り、絶対的な権威と権力をもつもの
と、沖縄の民衆は教え込まれてき
た。街頭で知事を公然と論難し、

が中心であった。しかしストライキといつてもそれらは自然発生的なものであり、組織だったたたかいは社会主義者たちの登場をまつてはじまるのである。

国内的には大連事件（いすれも一九〇一年）に示されるように、日露戦争（一九〇四年～五年）後、帝国主義へと成長した日本資本主義が、労働者・農民の反抗を鎮圧しつつ、アジア侵略の道をばく進していく時代である。朝鮮併合直後に小泉視察官が「沖縄における統治のあり方が朝鮮統治の参考になるだろう」と新

かで沖縄における資本主義下の反対運動が開始されていく。(注一)沖縄の農地は、従来いわゆる地割制度によって農民に配分され、農民の土地所有は原則として認められていたが、一八九九年に公布された土地整理法によって、それぞれが耕作している農地の所有権を認められ、ほとんどが自作農家になった。

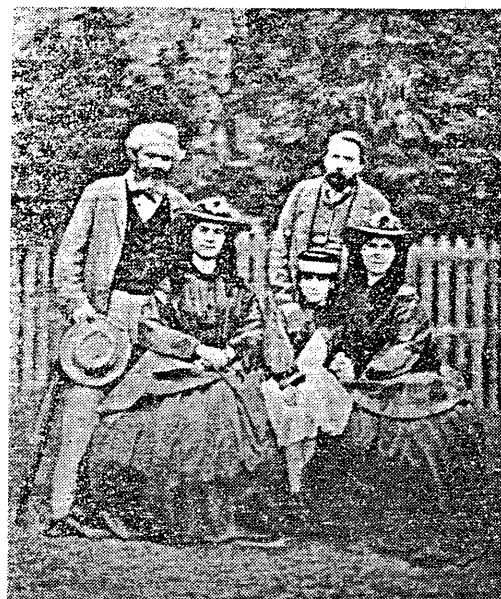
日出版局
出 版 届
改 正 再 版

聞の談話でのべたのは有名であるが、日本ブルジョアジーは沖縄をアジア侵略の踏み石試験場と位置づけ、植民地的收奪と支配、侵略戦争への動員の攻撃を強化した。しかしこの時期、人民大衆のたたかいはいまだ部分的に消極的なもの

つ自作農として出発したのであるが、その後、年代を下るにしたがつて土地を失い、小作または小作兼業者の零細農家が増加する一方、離農者もふえ、他方では沖縄的な意味での大地主が形成されていく

明治十三年四月八日出版局
全十五年十二月出改正再版
沖繩縣學務課編纂
沖繩對話

明治十三年四月八日出版局
全十五年十二月出改正再版
沖繩縣學務課編纂
沖繩對話



マルクス、エンゲルス、マルクスの娘たち、
ジェニー、エリーナ、ローラ(1860年代)

階級対立の非和解性を開示

労働者階級の独自結集のための武器

マルクスの「労働と資本」は、「新ライオン新聞」の一八四九年四月五日号より一日号まで、計五回にわたりて一連の論説として掲載、発表されたものである。

エンゲルスの序文にあるように、「そのもとになったのは、マルクスが一八四七年にブリュッセルのドイツ人労働者協会でおこなった講義」

マルクスの「労働と資本」は、「新ライオン新聞」の一八四九年四月五日号より一日号まで、計五回にわたりて一連の論説として掲載、発表されたものである。

マルクスはこの講義を出版したが、まもなく起きたヨーロッパ革命現実の階級闘争の指導と「新ライオン新聞」発行の準備に忙殺されて、その計画を中断しなければならなかつた。そして、ようやく一八四九年四月になつて発行にこぎつけたのである。

●革命の敗北を総括して書かれた

「労働と資本」は、一八四七年のヨーロッパにおける階級闘争に対してかけられた封建的絶対主義者やブルジョア自由主義者による反革命宣伝をうち破り、一八四八年革命の敗北を総括し、プロレタリアート独自の任務を確立する目的をもつて書かれた労働者向けのパンフレットである。

では、一八四八年のヨーロッパ革命とはいったい何であったのか。

一八四八年のヨーロッパ革命は、二月パリ労働者のフランス七月王制打倒をめざす蜂起によってそのろしが打ちあがられた。ついで、革命はウイーン、ベルリンに拡大し、それまで三〇数年にわたってヨーロッパを支配してきたメットルニッヒ体制を吹きとばし、被抑圧民族ボーランドなどの民族独立運動を活性化させた。

パリの六月闘争——一月革命における「労働権の要求」に応える形で共和政府は「国立作業所」を開設したが、六月、これを強行解散する弾圧に出た。パリの労働者は「パンか弾丸か」「労働者の権利」「社会主義共和国万才」をスローガンに掲げ政府軍二五万に対し、労働者四万人

である。マルクスはこの講義を出版すべく準備にかかったが、まもなく起きたヨーロッパ革命現実の階級闘争の指導と「新ライオン新聞」発行の準備に忙殺されて、その計画を中断しなければならなかつた。そして、ようやく一八四九年四月になつて発行にこぎつけたのである。

古学典 第③回 労働と資本

である。マルクスはこの講義を出版すべく準備にかかったが、まもなく起きたヨーロッパ革命現実の階級闘争の指導と「新ライオン新聞」発行の準備に忙殺されて、その計画を中断しなければならなかつた。そして、ようやく一八四九年四月になつて発行にこぎつけたのである。

で、パリケード戦をたたかつた。プロレタリアートとブルジョアジーの歴史上はじめての正面戦は、四日間の戦闘の結果ブルジョアジーの勝利に終わった。ヨーロッパに反革命の嵐が吹きはじめた。

ウイーンの陥落、ベルリンの悲喜劇——三月革命はメットルニッヒを退陣させた。しかし、パリ六月闘争の反革命は、ドイツの反動勢力を元氣づけた。一方、革命の急進化に動搖し、プロレタリアートの成長を恐れていたドイツのブルジョアジーは、反動勢力との妥協をはかり、革命を裏切りはじめた。オーストリア皇帝は、十月ハンガリーへの鎮圧軍に出動し、反対する暴動がウイーンで起きたこと、六万の軍隊をもつて、市民防衛軍が守備するウイーンを包囲、鎮圧した。ウイーン反革命の勝利はベルリンに波及し、ドイツ・ブルジョアジーの裏切りもあって、プロシニア国民會議は解散され、市民軍は武装解除され、ベルリンも反革命の手に落ちた。こうして反動が勝利の地歩を固めた。

マルクスは、この一連のヨーロッパ革命を「労働と資本」において次のように総括している。「パリの六月闘争、ウイーンの陥落、一八四八年一月のベルリンの悲喜劇、ボーランド、イタリア、ハンガリーの必死の奮闘、アイルランドの飢饉のための屈服——これらがヨーロッパにおけるブルジョアジーと労働者階級の階級闘争を総括する主要な諸契機であつて、われわれはこれらにもとづいて次のことを証明した。それは、どんな革命的反乱も、たとえその目標がどんなに階級闘争からかけはなれているようにみえようとも、革命的労働者階級が勝利するまでは失敗するほかないということ。どんな社会改良も、プロレタリア革命と封建的反革命とが一つの世界戦争で勝敗を決するまではユートピアにどまるということである」。

「労働と資本」は「労賃とは何か? それはいかにして決定されるか? 資本によって榨取されているどの労働者にも直接に関係のあるこうした問題から出発して、……労働者と資本家との利害は一致するという、資本家およびその政治的なならばに論破している」(エンゲルスの序言)に示されるように、経済学上のマルクスの見解を広範な労働者に全般的に明らかにすることに決してどどまるものではない。それは、ブルジョアジーとプロレタリアートの階級利害が非和解であることを示し、ブルジョアジーの打倒とプロレタリアート独裁の樹立のみが資金奴隸状態から労働者を解放することができるという彼の理論を、その物質的条件において明らかにしたものであるといえる。

●現代に本書の意義を復権しよう

最後に、「労働と資本」が発表されるや、当時マルクスの影響下にあったケルン労働者協会はこれを支部の賃金討論会の基礎にすることを決定し、さらにドイツ民主主義協会から脱退して労働者階級独自の組織の強化を開始していった。この一事実に示されるように、プロレタリア解放の実践と深く結びつき、特に、革命の進展との実践的関係のなかで本著が公刊されたものであることは深く記憶されねばならない。

マルクスはいう。「わが読者諸君は、一八四八年に階級闘争が巨大な政治的形態をとつて發展するのをみてきたのであるから、ブルジョアジーの存立と彼らの階級支配との基礎をなしており、また労働者の奴隸状態の基礎ともなっている経済的諸閑

係そのものに、いまやくわしくたちいるべきである」。

すでにマルクスと共産主義者同盟は革命の当初からブルジョアジーに對し、いささかの幻想も抱いていたが、一八四八年の経験から、階級闘争の物質的条件とその經濟的基礎をより全体的に明らかにする必要に迫られていたのである。

「労働と資本」は「労賃とは何か? それはいかにして決定されるか? 資本によって榨取されているどの労働者にも直接に関係のあるこうした問題から出発して、……労働者と資本家との利害は一致するという、資本家およびその政治的なならばに論破している」(エンゲルスの序言)に示されるように、経済学上のマルクスの見解を広範な労働者に全般的に明らかにすることに決してどどまるものではない。それは、ブルジョアジーとプロレタリアートの階級利害が非和解であることを示し、ブルジョアジーの打倒とプロレタリアート独裁の樹立のみが資金奴隸状態から労働者を解放することができるという彼の理論を、その物質的条件において明らかにしたものであるといえる。

「労働と資本」から一〇〇年以上たった現在、資本主義はより深い経済的危機に瀕している。このような時代こそ、プロレタリアートはブルジョアジーに対する自己の政治的旗印をより一層鮮明にしなければならない。本著を、広範な労働者階級を結集するための強力な武器として活用していく必要がある。